

どこでもだれとでも演奏できる 「ガジェット楽器」を作る！

「カゴエテロ」

武蔵野電波

持ち運びが楽で、いつでもどこでも演奏できるガジェット楽器。そのガジェット楽器がいかにして普及したのか、また筆者らがガジェット楽器を作ると思った経緯などを紹介します。具体的な回路と遊び方も説明しているので、ぜひ演奏に挑戦してみてください(*1)！
(編集部)

🎵 ガジェット楽器が流行中

「ガジェット楽器」という言葉をご存知でしょうか？ たとえばiPhone/iPod touch用の各種楽器アプリケーションやクラフトワーク、デヴィッド・ボウイーも使った世界最古の携帯電子楽器「スタイロフォン」などが挙げられます。これらガジェット楽器と称されるものの特徴は、「安い」「小さい」「電池駆動」の3点です。

筆者らが普段使っている「KORG DS-10」(写真1)は、ニンテンドーDS上で動作するソフトウェア・シンセサイザです。したがって、大きさはニンテンドーDSそのもの。価格も一般的なゲームソフトと変わりません。しかし、音と操作性はア



写真1 ニンテンドーDSで動作する「KORG DS-10」

ナログ・シンセサイザそっくりなのです。iPhone/iPod touch用のアプリケーションに至っては、数百円で購入できます。

🎵 動画サイトが火付け役に

ガジェット楽器の魅力は、手に入れやすく、場所を選ばず演奏できるという、敷居の低さにあります。

普及の理由は、動画共有サイトにあるようです。ユーザの作った楽曲が動画共有サイトに投稿され、それを見た多くのユーザに製品の存在が伝わっていったという流れです。それで「製品が出る」→ユーザが製品を使った動画を投稿する→「それを見た人が製品を買い、また動画を投稿する」といった循環で、ガジェット楽器は普及していったように思います。

これが今まで電子楽器に触れたことのなかった層に支持されたのでしょう。最近ガジェット楽器を買ったユーザは、動画共有サイトを見て興味をもったという人がほとんどです。おもちゃのように見える小さな楽器でも、スーパー・プレイヤーの手にかかると、見た目からは想像もつかない表現

(*1) お知らせ：プレゼントに、「Love Amp」、「ミキサ」、「マイク」、「レベル・メータ」の基板を用意しています！詳しくはエレキジャックのWebサポート・ページまで！
<http://www.eleki-jack.com/support/>

Stylophone+DS-10 - The Girl From Ipanema



★★★★★ 210 件の評価

再生回数 55,125 回

図1(*2) 動画サイトで人気のスタイロフォン・プレーヤ、Koishistyle氏の動画

自分のお気に入りの動画を探してみよう。

力を発揮する、そんな意外性と奥の深さを見せつけられたことが、購入への動機になったのかもしれない。だからなのか、動画共有サイトに投稿するスーパー・プレイヤ(図1)には、世界規模で大勢のファンがいます。

携帯性を生かしてセッション

スーパー・プレイヤにはなれなくても、音を鳴らすだけで楽しいのが楽器です。一人でも十分楽しめますが、複数人でセッションできるとさらに音楽の幅が広がります。とくに筆者らは「ガジェット楽器はセッションしてナンボのもの」と考えています。

たとえば、バンドの練習を想像してください。スタジオを借りなければならず、機材を持ち運ぶための労力も必要です。ギターやベースなら電車で移動できますが、それでもエフェクト・ボードまで持つとちょっと重いですね。キーボードに至っては、フルサイズなら車がなければ運ぶことは無理でしょう。

つまり重く、面倒な上に、お金もかかるということが言いたかったのです。バンドが面倒になるのは、案外とこんなところだったりするのではないのでしょうか？

しかし、ガジェット楽器ならカバンで持ち運べます。なんならポケットに入れて歩いてもいいです。しかも喫茶店の机の上に並べるだけでセッ

ションできます。先ほど述べたようなバンドに必要な気合はほとんどいりません。

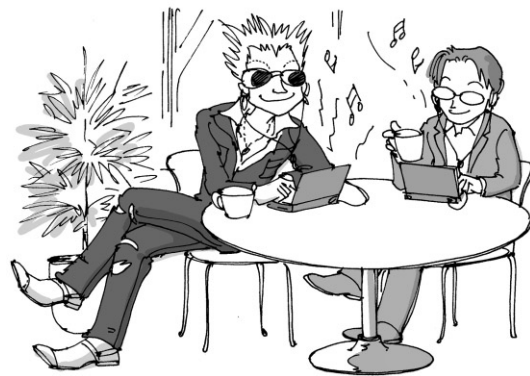
たとえば昼休みにコーヒーを飲みながらドンツク、ピコピコなんてことも可能です。ちょっとした編曲や、構成の練り直しなんかも、その場で周囲の意見を聞きながらまとめることもできるでしょう。密閉型のヘッドホンでモニタすれば、周囲に迷惑をかけることもありません。それが小型電子楽器の長所だろうと筆者らは考えています。

「カフェテクノ」を実現するために

KORG DS-10が発表されたときに「これを使ってカフェでテクノするのが楽しいんじゃない？」とすぐに思いました。ただ、喫茶店でのセッションに必要な機材は、ほとんど市場には存在しません。そのうち出てくるかもしれませんが、カフェでテクノをやりたいと思っている変な人類は、ひょっとしたら筆者らだけかもしれません。

だったら自作すればいいじゃない！ そういう発想でいくつかの自作機材ができあがりました。どれも「用が足りれば十分」という考え方で、必要以上のクオリティはもたせていません。しかし、筆者らの自作機材は想定外のできごとにより、その後何度か試される機会を与えられました。そして意外と使える機材であることも証明されました。筆者らは何を作り、どう試練を乗り越えたのか。それはこの続きをぜひご一読ください！

(四本 淑三)



カフェでサクッとセッション

(*2) スタイロフォン・プレーヤ, Koishistyle氏の動画
<http://www.youtube.com/user/koishistyle>